

# 国土形成計画シンポジウム ～北陸のこれからを考える～



北陸圏広域地方計画協議会準備会の「国土形成計画シンポジウムー北陸のこれからを考えるー」が3月27日、金沢市の県立音楽堂邦楽ホールで開かれ、北陸の新たな将来ビジョンとして策定が進む「国土形成計画」の方向性を探りました。同協議会準備会の新木富士雄会長があいさつ、北陸地方整備局の吉野清文局長が同計画の概要について報告した後、昭和女子大学長の坂東眞理子氏の基調講演と有識者によるパネルディスカッションがあり、参加者約300人が新たな北陸づくりについて考えました。

## 基調講演 「地域の品格～よき生活環境の形成に向けて～」

坂東眞理子氏(昭和女子大学長)

地域づくりには、これまでの物質的な豊かさ、経済的な豊かさに、精神的な部分、ソフトな部分を加えた総合的なもので地域の魅力、地域の品格というものが求められるようになってきていると思います。

品格のある地域をつくるために、その前提として一番大事なものは基礎です。安心して生活ができるような基盤がきちんとしていることです。治山治水や道路などはもちろんですが、もう一つ忘れていけないのは静脈をきちんと整備することです。地域を持続的に維持できるように、暮らしの老廃物を上手に引き取る、引き受ける、リユースする、リサイクルする仕組みも併せて整備していく必要があります。そして、グローバル化という観点では、目に見える道路のネットワークと同時に、どこにいても世界中の情報を手に入れることができるような情報ネットワークも整備する必要があります。

緑の豊かな美しい風景の中で快適な生活ができるということは、有能な人たち、魅力的な人たちを集める非常に大事なポイントのひとつです。そのような人を引きつける快適な美しい環境、特に美しい風景をつくりあげていくためには、そこに住む人々が、



みんなに愛されるような、みんなの心に残るような品格のある地域を作るということを大事な価値として共有していくことが必要と思います。

国土形成計画の中でも「新たな公」という新しい概念が提示されていますが、まさに地域づくりはその精神がなかったら絶対に成功しないと思います。

これから東アジアの人たちが日本と協力をしながらいろいろな活動をする場面や60歳前後の団塊の人たちに二地域居住や中山間地への定住・定着をしてもらおうという動きもあります。そうしたよそから北陸に来ようか、住んでみようかといった人たちを受け入れる体制づくりということも大事だと思います。

いろいろな分野で専門的な仕事、例えば教育、福祉、医療などに携わっている女性たちが増えています。このような仕事をする人の質が高い地域は安心して老いることができ、安心して育児をすることができます。これも新しい魅力になっていくと思います。

住むのに魅力的な地域が、実は働くにも魅力的な地域であるという時代が来ています。ぜひこの国土形成計画では、ハード部分の整備だけではなく、ソフトな部分、人間的な部分にも目配りをしていただいて、より魅力的な地域づくりに役立てていただければと思います。

## パネルディスカッション 北陸が目指すべき姿

### ◆パネラー

奥寺 敬氏(富山大学大学院教授)・・・勤勉さは得がたい財産

織作峰子氏(写真家・大阪芸術大学教授)・・・もてなしの心を基本に

谷本 互氏(財地域振興研究所常勤理事)・・・恵雪と食文化の再認識

柳井雅也氏(東北学院大学教養学部教授)・・・様々な連携で独自色を

吉野清文氏(国土交通省北陸地方整備局長)・・・安全と安心が価値増す

### ◆コーディネーター

堀 喜代治氏(北國新聞社論説委員会論説副主幹)

### ○恵まれた資源を生かす

堀 現在、策定作業が進められている北陸圏広域地方計画の中で2つの将来像が掲げられています。その一つ目の将来像「人々をひきつける『暮らしやすさ』日本一」の実現のためにどういう方策が考えられるでしょうか。

柳井 3つの視点からお話をしてみたいです。最初に、北陸は富山から福井にかけて非常に個性的な都市がそろっており、3大都市圏や東アジアなど全方位的にチャンスに恵まれた地域です。各都市の連携と役割分担で地域全体のシナジー効果を図っていく必要があります。二つ目は、にぎわいのある、活気のあるまちづくりを地域の商店街が連携して進めることです。最後に、非常に独

自の技術を持っており全国的にも評価が高い北陸の企業についてもやはりお互いに連携をしていく必要があります。

織作 何とも言えないほのぼのとした風景が日常に見られ、普段の生活の知恵がアートにもなるという本当に素敵な地域だと思います。このような日本の原風景のようなものを大切に守っていただきたいと思います。また、あまり知られていない風景をアピールすることもポイントだと思います。

北陸の食文化はパーフェクトですから、恵まれた食生活もPRの大事な一つになると思います。

谷本 雪に恵まれるというのは北陸の重要な特質であり、利雪、克雪という言い方に加えて、私は恵雪と常々言っています。良質の水ももともと雪であり、水から得られる電力で産業も振興され、まさに雪に恵まれた地域であることを再認識する必要があります。

また、北陸の産業は、伝統産業からの流れをくんでおり、和漢薬、絹織物、銅器もそれぞれ製薬、ハイテク繊維、アルミというまさに質を追求するものづくりというところに受け継がれています。

奥寺 私は3年前にNPO法人北陸救急災害医療機構を立ち上げ、最初にAED（除細動器）の普及講習を行いました。この地域はものすごく勤勉な方が多く、富山での講習会に石川、福井の方々が見えました。

大変勤勉で歴史、伝統もあり、社会基盤がしっかりしているので、学習するシステムなど「新たな公」で行うというモデルを作るなど、少し工夫すれば全国初のこともでき、ここから全国に展開することもできると思っています。

吉野 日本は世界的に見ても常に人間がある働きかけをしないと安定的に暮らせない国土となっています。安全・安心というのは、ここだけを守るとか、ここだけを捨てるとかはできないため、それなりの投資が必要な分野だと思います。ハードとともにソフトな取り組みも必要であると思います。



### ○地理的優位性を武器に

堀 二つ目の将来像「世界に開かれた日本海側における交流の中核拠点」の実現のためにどういう方策が考えられるでしょうか。

柳井 私が座長を務めています北陸地域国際物流戦略チームでは昨年11月に4つの提言をまとめました。一つ目が国内外で繋ぎ目のない物流体制をつくること、二つ目が多様な輸送経路への対応、三つ目が企業の立地促進、四つ目が国際物流機能の利用促進です。この4点を実現していけば新しい北陸の魅力

が発揮できると思います。

谷本 北前船は江戸時代、それから明治を通じて日本海側と関西をつないでいた交流のメディアです。食材も運びましたし、さらに文化も運んだと思います。現在、日本海側をつなぐ平成の北前船はやはり高度な情報システムと高速道路、鉄道のネットワークであり、これはぜひ早くつないで欲しい。

食に関して、北陸は食の素材から調理加工、美的センスも含めて特筆するところだと思います。その素材の一つとして、北陸発の文明商品であるコシヒカリを国際的な戦略物資として再認識してはどうかと思います。

食は観光でも北陸の魅力の一つとなっています。それぞれの商品、それぞれの地域が連携して、テーマ性を持ってアピールすることも重要であると思います。今後の観光は、連携なくしては集客に結びつかないため、ぜひ県境を超えて連携した取り組みを進めていただきたい。

織作 撮影で世界を回って、外から来た人を温かく受け入れる体制づくりが大事だと感じます。特に、ボランティアやNPOの活動も大変重要だと思います。

それから、自分の家の中だけをきれいにするのではなく、外の道を歩く人が楽しめるような四季折々歩いて楽しめるまちづくりということも大事だと思います。

奥寺 外から来ていただくときに、やはり安全・安心の面から、救急医療の水準などがしっかりしていないといけないと思います。

太平洋側の大規模地震などの災害への対応として、他圏域の人たちの避難を大量に引き受けるとか、そういうシェルター構想のようなものがあっても良く、そのためにも北陸新幹線が早く欲しいと思います。

学術交流では、優れたコンテンツには多くの人が国内外から集まってきます。北陸の大学で開発したものをNPOを通して地域に提供できるし、国内の他圏域にも提供することが可能です。

外から来た人を大事にすることで交流の拡大につながるという考え方も重要だと思います。

吉野 国土形成計画は、県境を超えた広域ブロックでお互いの強みを発揮しながら連携をして、地域の皆さんで考えて将来に向かって地域づくりを進めようというものです。

連携は一つのキーワードです。対岸の東アジア地域では急成長が続いており、外国人観光客や物流の増大などに対応した観光における広域的な連携、港や拠点と後背地をつなぐ輸送のためのネットワークの形成に向け頑張ってもらいたいと思います。

堀 北陸は多様で豊かな自然があって、景観、風景というのは大きな財産であろうと思います。そして、北陸が東アジアに向かって開かれており、その後背地に

東京、名古屋、大阪という3大都市圏があるという考え方に立てば非常に優位なポジションにあると思います。さらに、食も含めて歴史的・文化的な面、ものづくりや産業の面、さらに学術の面においてもそれぞれの能力、特徴があると思います。

北陸は、歴史的にも地理的にも非常に三県の結びつきの強い地域であり、三県が切磋琢磨して個性や強みを発揮する一方、連携を強化して北陸全体の浮上を図りたいと思います。今日はありがとうございました。